

令和4年度 学校評価書(共通) 前期

校名

宇和島市立明倫小学校

1 自己評価書

教育目標	自ら考え進んで実践する心豊かな子どもの育成 ～笑顔と感動、みんなの明倫小学校！～					
基本方針	凡事徹底～当たり前のことを当たり前～					
本年度重点目標	1 安心・安全な学校づくり 2 確かな学力を育てる教育の推進 3 学校全体で進める生徒指導の充実 4 特別支援教育の充実 5 豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進 6 教職員の資質・能力の向上と学校組織の活性化					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。 ・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	A C	B	
	②	授業改善	主体的な学びの実現に向けて授業改善に努めた。(一斉教授型の授業スタイルからの脱却)	・教師アンケート C ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート B	B	
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート C ・児童生徒アンケート B		B
			一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、主体的に学びや個に応じた学びの推進に努めた。	・教師アンケート B ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート A		
	③	家庭学習の充実	授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。(予習・復習・振り返り等) ・教師アンケート B ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート B	B		
	④	読書活動の充実	読書に対する関心意欲を高め、読書習慣の定着に努めた。 ・教師アンケート C ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート B	B		
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。 ・教師アンケート C ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート A	B		
	(成果と課題) ○全教職員が家庭学習と授業との連動を意識して取り組むことが増え、学習活動全体が充実しつつある。 ○学校での読書の機会は確保できているものの、家庭では十分でないという結果であった。読書習慣の定着が課題である。 ○学力向上推進主任による学力テスト等の詳細な分析ができた。今後は各学年で分析を生かした授業改善に取り組む必要がある。					
	(改善策等) ○コロナ禍の中、地域に出向いての学習の機会が減少している。地域コーディネーターにも協力してもらい、地域学習を充実させていく。 ○図書館での貸し出し機会を増やすとともに、学校と家庭とが連携して読書の機会を増やしていくための取組を進めていく。 ○ICT機器の効果的な活用方法や主体的・対話的で深い学びについての研修、授業改善を進めていく。					
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。 ・教師アンケート C ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート B	B		
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間づくりに努め、心の通う対人交流が深まってきた。	・教師アンケート B ・保護者アンケート B ・児童生徒アンケート A	B	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート B ・児童生徒アンケート B ・保護者アンケート B		B
			いじめの未然防止、早期発見、解決に向けて組織的に取り組むとともに、地域・保護者に対して、「学校いじめ防止基本方針」の周知に努めた。	・教師アンケート C ・児童生徒アンケート B ・保護者アンケート B		
	③	基本的な生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で取り組んだ。 ・教師アンケート C ・児童生徒アンケート B ・保護者アンケート B	B		
	④	自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・児童生徒アンケート B ・児童生徒の姿 B	B	
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・児童生徒アンケート B ・児童生徒の姿 B		
	(成果と課題) ○生徒指導主事を中心とし、生徒指導上の諸問題に対して組織的に対応を進めることができた。 ○児童には、規範意識が低いと思われる行為が見られることもある。また、挨拶については、児童、保護者・地域・教員の認識にずれが生じている。 ○自己肯定感・自己有用感が低い児童もあり、それらを高めていくための取組が必要である。					
	(改善策等) ○学校、家庭、地域全体で、挨拶についての取組を開始する。学校運営協議会で熟議した内容を共有し、挨拶を始めとした人と人とのコミュニケーションを通して、児童の自己肯定感、自己有用感を高めていくよう努める。 ○学校いじめ防止基本方針については、ホームページだけでなく、保護者が参集する機会に直接紹介するようにする。					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス 仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C B	C
	②	働きやすい環境づくり 業務改善に向けて自校の課題を洗い出し、慣例にとらわれることなく積極的に改善に努めた。 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	C	C
			・教師アンケート	C	C
③	他の教職員のサポート体制の充実 「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B	
<p>(成果と課題)</p> <p>○超過勤務時間が80時間を超える教職員が多くおり、昨今の日本の教育現場に関する報道を目にした保護者も心配している。 ○業務改善につながる声掛け等もやっているが、教職員一人一人の意識が変わらないと、働き方改革につながりにくい。 ○初任者や講師を始めとする経験の浅い教職員が働きやすいよう、組織全体で育成について考え、関わる事ができた。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○ボトムアップの働き方改革を進めていき、学年会や個人の単位でできることを考え、実行するような場を設けたい。 ○学校運営協議会で、地域と協働していく部分を検討し、それらを充実させることで教職員の働き方改革につなげたい。 ○先進的な取組をしている学校の事例を参考に、働きやすい環境づくりに努めたい。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化 学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めるとともに、全職員の共通理解の下、学校運営協議会の活性化を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	C	B
			・保護者アンケート	B	
			・地域アンケート	A	
②	情報発信 家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	B	B	
		・保護者アンケート	B		
		・地域アンケート	A		
③	来校・相談体制 保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B	
		・保護者アンケート	B		
		・地域アンケート	A		
<p>(成果と課題)</p> <p>○昨年度は書面開催が多かったが、参集しての学校運営協議会を開催することができ、熟議を通して委員全員の思いを同じくすることができた。 ○学校運営協議会の取組についてホームページ等で紹介できた。学校運営協議会がなぜ必要なのか、教職員への研修を深める必要がある。 ○ホームページ、学校通信や学年通信などで取組や児童の姿を紹介したことは、保護者や地域からも評価が高かった。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○学校運営協議会で熟議した方向性について、委員会や学年会で協議し、実現に向けて具体的な取組ができるようにしたい。 ○ホームページは数名の教職員が中心となり記事を更新しているが、記事の内容を充実させ、更にたくさんの方に見ていただけるようにしたい。 ○コロナ禍でなかなか来校しにくい状況だが、感染症拡大防止対策に万全を期して、可能な範囲で来校していただける環境を整えたい。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満